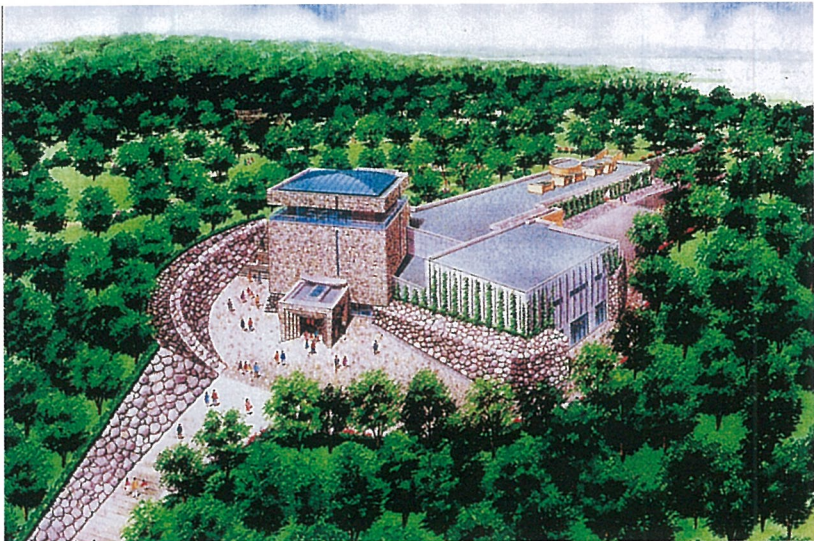


●博物館が04年度完成

大和国家の発祥伝承が息づく「特別史跡・西都原古墳群」が今、新時代に向けて装いを新たにしている。

一九九五（平成七）年度から八カ年計画で進んでいる「歴史ロマン再生事業」。これまでに、この形はわが国でここにしかないという「鬼の窟」古墳の内部調査と修復が終わり、さらに四世紀の前方後円墳といわれる十三号墳の美しい全ぼうを明確にし、内部が直接観察できるようになった。このほか、西都原古代生活体験館、酒元ノ上横穴墓群の覆屋保存施設などが設置された。

また現在工事が進められ、同再生事業のメインとなるのが「県立西都原考古博物館」（仮称）。最新の設備で、西都原の歴史、考古学の成果を紹介する。二〇〇二（同十四）年四月に着工、〇四（同十六）年度にはオープンの予定である。



西都原考古博物館の完成予想。新たな古代ロマンの扉が開く

西都原古墳群は一九六八（昭和四十三）年、「風土記の丘」構想の全国第一号として整備され、国の特別史跡公園になった。その後、都市開発の波が押し寄せ始めた七〇（同四十五）年、県と西都市は、西都原風致保存についての確認書を取り交わした。それには「西都原古墳群は特別史跡地区、県立自然公園特別地区を問わず現状のまま保存することを原則とする」とうたわれ、全国にまれな大古墳群保存の鉄則ともいふべき内容であった。

西都原台地には、四世紀から七世紀にわたる三百十一基の古墳が群集する状態で保存されている。その中には独特の柄鏡様式も含め、三十一基の前方後円墳が存在する。

中でも男狭穂塚、女狭穂塚の二つの巨大古墳は、古代の日向に、大和地方とつながる一大勢力があったことを暗示している。しかもこの後

方に位置する一六九号からは、国の重要文化財である「子持ち家型埴輪（はにわ）」と「船型埴輪」が出土している。

また興味深いのは、日向地方独特の墳墓である地下式横穴墓が、この古墳群内から発見されていることである。この種の墓の分布では、本県の北限をなしており、今後の研究課題となっている。

本県中央部には宮崎市の生目古墳群、国富町の本庄古墳群、新富町の新田原古墳群、高鍋町の持田古墳群など多くの古墳群が存在する。これらと、装いを新たにする西都原古墳群が連携を深めて広く紹介されれば、本県はまさしく古代史のロマンを再生するところとなる。夢は広がる。

日高正晴